

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	アメリカの国際協力の理念と実践: 知的協力と開発の視点から
氏名 Name	森江建斗
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	大学院人間・環境学研究科/共生文明学/博士課程2年
渡航国 Country	アメリカ合衆国
渡航日程 Travel schedule	2022年 9月 11日 ~ 2022年 10月 16日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

申請者は、アメリカの国際協力の歴史に関心を持ち、知的協力と開発の両分野で、アメリカ政府より先駆的な活動を第一次世界大戦前夜から展開してきたアメリカの民間財団や大学、研究者個人に注目して研究を進めてきた。

今回の滞在では、修士論文で得られた知見に基づき、(1)ラスクの国務長官時代の開発政策と、(2)フォード財団やカーネギー財団の開発・知的協力プログラムに関する一次史料の収集を計画した。

渡航計画:

9月11日 渡航

9月12日-16日まで、テキサス・オースティン: ジョンソン大統領図書館

9月18-19日まで、ワシントン DC

9月20日-22日まで、ボストン: ケネディ大統領図書館

9月26日-30日まで、ニューヨーク: コロンビア大学図書館

10月3日-14日まで、ニューヨーク: ロックフェラーアーカイブセンター

10月15日 出国

10月16日 帰国

成果 Outcome

以下の日程で、史料調査を実施した。

9月11日 渡航

9月12日-19日まで、テキサス・オースティン: ジョンソン大統領図書館 (延長)

9月20-22日まで、ボストン: ケネディ大統領図書館 (変更なし)

9月26日-10月8日まで、ニューヨーク: ロックフェラーアーカイブセンター(調整)

10月10日-14日まで、スタンフォード大学フーバーアーカイブ (追加)

10月15日 出国

10月16日 帰国

当初の到達目標との関係

A: ケネディー大統領図書館

- ⇒ 到達。3日にわたり調査を実施し、当初予定していた史料の収集を終えた。主要な史料: PAPERS OF JOHN F. KENNEDY, PRESIDENTIAL PAPERS, NATIONAL SECURITY FILES, JOHN KENNETH GALBRAITH PERSONAL PAPERS 他

B: ジョンソン大統領図書館

- ⇒ 達成。当初5日の滞在を6日に延ばして調査を実施し、当初予定していた史料の収集を終えた。主要な史料: NATIONAL SECURITY FILE, Office Files of Charles Murphy, Administrative History Volume 1, President, 1963-69 他

C: コロンビア大学図書館

- ⇒ 未達成。後述するスタンフォード大学での史料調査を優先した。

D: ロックフェラー・アーカイブ・センター

- ⇒ ある程度達成。ジョンソン大統領図書館で収集した史料に沿って、今回の滞在での収集史料の内容を組み替えた。組み替えた史料については、収集完了。主な史料: Ford Foundation records, International Division/ Rockefeller Foundation records, administration, program and policy 他

E: スタンフォード大学フーバー・アーカイブ・アンド・ライブラリー

- ⇒ ジョンソン大統領図書館での史料調査に基づき、1950年代後半から1970年代にかけて、アメリカの大学の国際化を、アメリカの対外援助と連携を取りながら推進した民間組織の史料群について調査した。予定した史料の収集を完了した。

今後の展望 Prospects for the future

- ⇒ フーバーライブラリー、ロックフェラーアーカイブセンター、大統領図書館の史料を併用して、1950年代から1960年代におけるアメリカの政府・大学・財団の対外援助分野における協働の実態を、多角的に分析する。本分析の一部は、11月のアメリカ学会関西支部での発表および、来年度3月末提出締め切りの論集への論文投稿を目指している。
- ⇒ 政府系の史料という点では、今後ワシントンDCの国立公文書館、トルーマン大統領図書館、アイゼンハワー大統領図書館などで、こういった史料を調査すべきか、調査の必要の有無も含めて、検討する材料としたい。
- ⇒ 今回は、コロンビア大学図書館へは調査に行くことができなかったことにより、カーネギー財団関係の史料の収集が、次回への積み残しとなった。今回ロックフェラーアーカイブセンターで収集した史料を分析する中で、カーネギー財団の重要性を間接的に分析するとともに、次回の調査に備えたい。

左上：ジョンソン大統領図書館

左下：ケネディ大統領図書館

右上：ロックフェラーアーカイブセンター

右下：スタンフォード大学フーバーアーカイブズライブラリー

